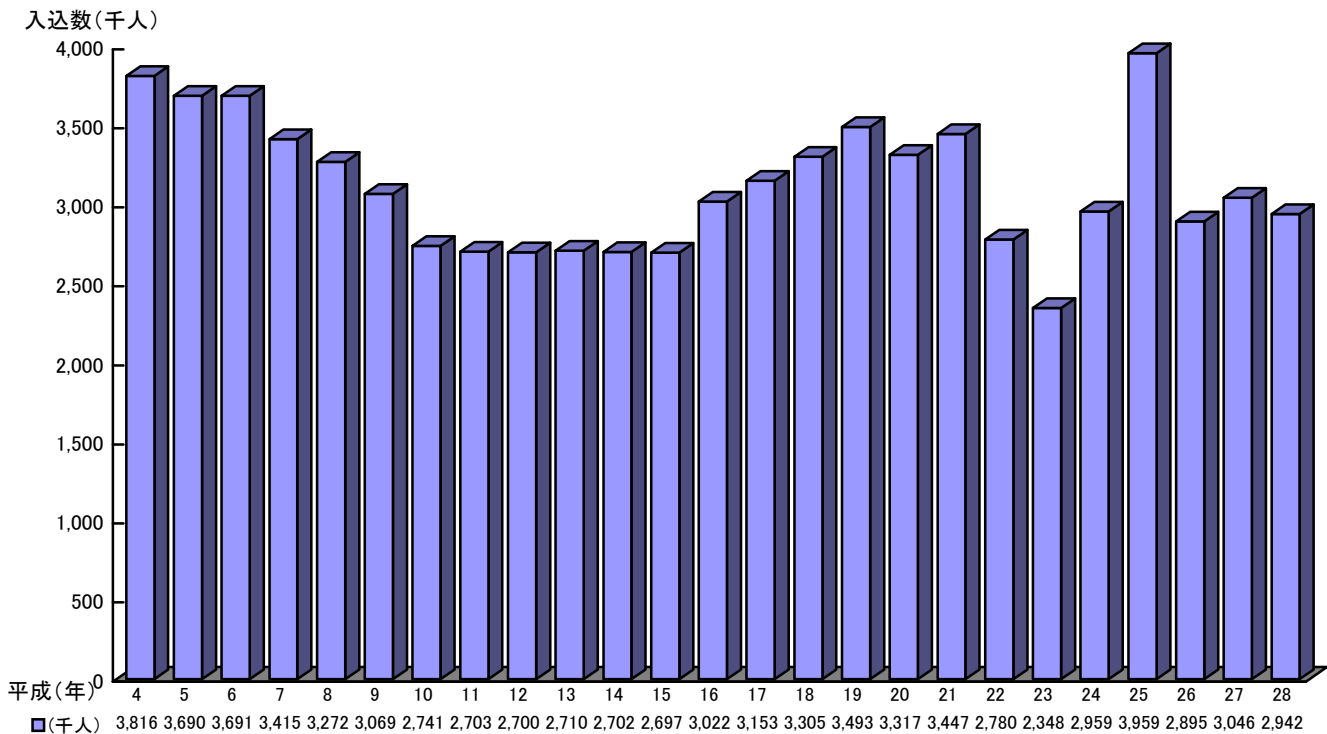


## 平成 28 年会津若松市観光客入込みの概況について



平成 28 年に会津若松市を訪れた観光客の総数は 2,942 千人と、前年よりも 104 千人の減少(対前年比 96.6%)となりました。桜の開花が例年より早く、通常の観桜シーズンに桜が散っており、さらに開花中に降雪に見舞われ、観桜客が減少したことやイベントの減少が要因として挙げられるところです。

入込総数は前年を下回ったものの、東山・芦ノ牧両温泉利用者及び市内旅館・ホテルの宿泊合計数は 70 千人増加(対前年比 105.9%)となりました。

また、平成 28 年の「V」案内所外国人利用者数は 14,111 人と、前年比約 4,300 人の増加(対前年比 144.6%)となりました。東山・芦ノ牧両温泉の外国人宿泊合計数も 2,000 人となり、震災前(平成 22 年 2,064 人)の水準まで回復しています。

昨年末には、ミシュラン・グリーンガイド東北WEB版に、会津若松市及び鶴ヶ城、御薬園、さざえ堂が新たに掲載されたこともあり、平成 32 年の東京オリンピック開催に向け、今後ますます外国人観光客の増加が期待できるところです。

平成 29 年は、JR東日本の豪華寝台特急「TRAIN SUITE 四季島」や東武鉄道新型特急「リバティ会津」の会津乗り入れが開始されることや、インターハイによるテニス、ソフトテニス、ボクシング競技の市内開催、さらに、10 月から 12 月は、福島県がJR東日本の重点販売地域に指定されるなど、これら観光誘客の好機を活かした効果的な事業展開に取り組んでまいります。

さらに、日本遺産に認定された「会津の三十三観音めぐり」を活用した誘客や、平成 30 年に迎える「戊辰 150 周年」に向けた取り組みを行うとともに、引き続き、教育旅行、コンベンション、インバウンドの誘客事業を重点とした、観光振興に努めてまいります。